



石川 一雄

安全は

お互いを思う心から

安全第一、それは工事に携わる私達誰もが無事故無災害を願ってという強い思いで考えること。しかしその無事故無災害、どのように進めたら叶うのか。

やるべきことを漏れなくやるのは当然のこと。だから法律・規則の順守、教育・指導の徹底、そして設備の安全等々と突き進むのだが、いつも心を過るよぼるのが、それだけで万全なのかという不安。そんな思いでダム建設工事にあたっていた私達の前にその標語が現れた。安全週間に因ちなんでの安全標語募集で、その工事従事者の多くから五百を超える作品が寄せられ、私を含めた建設工事事務所職員十人がそれぞれ二十作品を選定して持ち寄り、入選十編、佳作十編を選んだ。そしてその中から最優秀を協議するという時に、十人全員が奇しくも一致したのがその標語、

【危険箇所 避けて通れば自分だけ 直して通れば 皆安全】だった。

選定時には伏せられていた作者名を皆で開けてみると、それは骨材生産工区の責任者のAさん。皆から一斉に、『あー、ヤッパリな』という声があがった。がっしりした体軀ではあったがおとなしく、ダム建設現場の工区の責任者というよりも、一人静かにこつこつと事務処理を、というタイプではあったのだ。

Aさんが責任者を務める骨材生産工区はダムのコンクリートの材料を生産する工区。原石山（コンクリートの材料の砂利を造るための岩石を掘り出す岩山）を爆薬の発破で掘り崩し、それで出た大量の岩石をクラッシングプラントという機械設備を通して細かく破碎して砂利と砂を造るといふもので、爆薬で岩山を掘り崩していくという性質上、ダム工事の中でも最も危険な工区の一つになっている。しかしそういう工区でありながらAさんのこの工区は最も安全管理が行き届いていた。整理整頓が行き届き、とかく殺伐となりがちなダム建設現場の中で清々しささえ感じさせる趣があった。

『あー、ヤッパリな』という声が出たのも、やはりあの責任者のそうした考えに作業員全員が納得していたからなのだろう、と私たち皆が思っていたからこそかもしれない。

法律・規則の順守、教育指導、安全設備等々。しかしそうしたものが完璧になされた

上でそれを効果ならしめる、あるいは工事に携わる者全員が心の中に持っていないなくてはならないこと、それがこの標語に込められている『お互いを思いやる気持ち』なのかもしれない。

自分の身は自分で守る、それは大前提。しかしそれで果たして無事故無災害の現場を現出させることができるだろうか。一人の人に周りの皆の注意が注がれ、そしてその人もまた周りの人達の安全を見守る、安全はそういう思いが一つにまとまった時、初めて完璧となるものなのかもしれない。それは無意識のうち誰の心の中にもあるものかもしれないが、改めてあの標語がそれを引き出してくれたのだと思う。

その後私はそのダム工事を終えてから、さらに二つのダム建設に従事したが、その間もこの標語、【危険箇所 避けて通れば自分だけ、直して通れば 皆安全】の言わんとするところこそが安全の基本と、常に心がけ続けた。